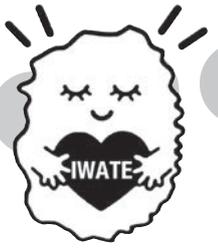


岩手ホスピスの会通信



岩手ホスピスの会（代表：川守田裕司 事務局長：吉島美樹子）

会 員 数 / 216 名 (2023.9.23 現在)

編 集 発 行 / 「岩手ホスピスの会」事務局 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町 13-31 川守田方

TEL : 090-2604-7918 FAX : 019-653-6447

郵便振替口座 / 02250-1-60580 E-mail / hospice@eins.rnac.ne.jp

Homepage (岩手ホスピスの会通信) http://hospice.sakura.ne.jp/

No. **72**
2023 年 10 月

「がん治療中に体力と筋力を落とさない食事の工夫」

～がん患者さんのための公開栄養講座開催～

7月29日盛岡市総合福祉センターで「がん患者さんのための公開栄養講座」を県立胆沢病院栄養サポートチーム専従管理栄養士・がん病態栄養専門管理栄養士の蛇口真理子さんを講師に開催しました。

約20名の参加者と「がん治療中に体力と筋力を落とさない食事の工夫」について一緒に考えました。

参加した方々からは「経口で抗がん剤治療を受けているが、最近体力が落ち体重も減る一方で、食事をしていても味が感じられず困っている」などそれぞれ切実な相談がありました。

今回の栄養講座のポイントは以下の通りです。



蛇口真理子さん

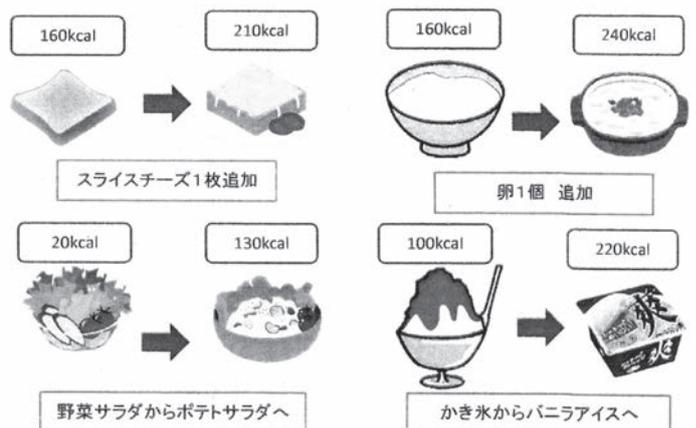
- ① がんの治療中は、吐気や味覚障害などで食欲が落ちやすく低栄養状態になりやすい。
- ② 食べやすいものを常備しておく、分割して食べること・少量ずつ栄養補給していくことで低栄養の予防になる。
- ③ 体調がいい時は、外出や軽い運動でリフレッシュを試みる。
- ④ 自分、家族だけで抱え込まずに病院スタッフに相談していただくことが大切。

食べやすい工夫

- 1、食事量を減らす
「食べられた」という満足感、達成感、栄養補給におやつ
- 2、定食形式⇒単品
(海苔巻やサンドイッチ、菓子パンなど)
- 3、のど越しがいい物にする(水分が多い)
▲焼魚、肉、食パン、ごはん・・・
○麺類、汁物、さしみ、冷奴、温泉卵、
サンドイッチ、クリームパン、カレーライス
- 4、食事が食べたくない時はデザートや栄養剤でもOK



ちょっとした工夫で栄養アップ



タオル帽子プレゼント

今年も全国 52 箇所のがん診療連携拠点病院にタオル帽子総数 3260 個を発送しました。お送りしたタオル帽子で患者さんが少しでも笑顔になっていただけることを、ボランティア一同願っております。

送付先病院一覧

2023 年 6 月 (1 件 50 個程度) 病院 52 件 総数 3260 個

- 北海道** 帯広厚生病院 **青森県** 十和田市立中央病院
岩手県 岩手医科大学附属病院 岩手県立胆沢病院
岩手県立久慈病院 岩手県立中央病院 **秋田県** 大曲厚生医療センター
山形県 山形県立中央病院 県立新庄病院 **宮城県** 東北労災病院 大崎市民病院
新潟県 新潟県立がんセンター新潟病院 **群馬県** 桐生厚生総合病院 前橋赤十字病院
埼玉県 さいたま赤十字病院 **千葉県** 旭中央病院 **静岡県** 磐田市立病院
愛知県 豊橋市民病院 名古屋医療センター 名古屋第一病院 中京病院
富山県 富山大学病院 **長野県** 相澤病院 **岐阜県** 大垣市民病院 **三重県** 鈴鹿中央病院
滋賀県 大津赤十字病院 長浜病院 **京都府** 京都大学医学部附属病院 京都大学病院
大阪府 東大阪医療センター **兵庫県** 関西労災病院 **奈良県** 奈良医療センター
岡山県 津山中央病院 高梁中央病院 **山口県** 山口県立医療センター 徳山中央病院 周東総合病院
愛媛県 愛媛県立中央病院 **徳島県** 徳島中央病院 **高知県** 高知医療センター
福岡県 田川病院 **長崎県** 長崎みなとメディカルセンター **佐賀県** 唐津赤十字病院
大分県 大分大学病院 **熊本県** 熊本赤十字病院 **宮崎県** 県立宮崎病院 宮崎大学病院
鹿児島県 鹿児島医療センター 出水郡医師会国広域医療センター
沖縄県 沖縄県立八重山病院 那覇市民病院 沖縄中部病院



タオル帽子仕分作業

がん患者の声 映像制作「緩和ケアへの願い」 ～がん患者とそのご家族の経験から～上映会開催

当会で作成した映像「緩和ケアへの願い～がん患者とそのご家族の経験から～」上映会は 9 月 23 日に盛岡市中央公民館講堂で開催され、約 90 名の参加者が来場して、映像を見ながら、治療への不安、副作用のつらさ、緩和ケア病棟での生活、家族との向き合い方などを考えました。(新聞記事 11 面参照) 上映後は参加者約 40 名が集まり懇親会を開催しましたが、多くの方々が自身のがん闘病体験、家族を看護・介護し看取った体験、病との向きあい方で不安に思っていることなどを語り、大変深い語り合いで有意義なものになりました。患者さん同士語り合うことは本当に大切だと改めて感じました。機会があれば今後もぜひ開催して行きたいと思えます。また、懇親会の最後に、当会から以下の通り、参加した皆さんにメッセージをお伝えしました。



「日本で緩和ケアが始まってから 30 年足らずであり、まだまだこの医療は道半ばと言っても過言ではないと思えます。緩和ケアが更に推進・浸透して、すべての患者さんががんの痛みから解放されるように、患者・家族自身が声を上げていかなければならないと思えます。皆さんのご協力をお願い致します。」

第32回岩手県がん対策推進協議会参加レポート

令和5年度第1回岩手県がん対策推進協議会は9月19日盛岡市内で開催され、15名の構成員が参加。前回2月の協議会で話された国のがん対策基本計画案に基づいて議論が行われました。

各関係機関から、近年がん検診率がどの部位でもアップしていること、未成年者の喫煙率が低下していること、がん教育を実施する中・高等学校は増加していることが報告されました。

本協議会公募構成員である中里るみ構成員と当会から以下の通り質問や意見が出されました。

担当者からの回答は→です。

中里るみ構成員

①在宅医療・在宅緩和ケアはオンラインでという意味ですか？

→オンラインではなく医療者が訪問して患者さんを診ることです。

②医療用ウイッグの助成は増えているのに、乳房補正具の助成が少ないのはなぜですか？

→ウイッグも最初は少なかったが徐々に増えたので、乳房補正具も同様に増えていくものと思う。

③沿岸地域の患者さんが十分な医療を受けられていないように思う。

→宮古病院の院長をしていましたが、盛岡の病院で手術をした後、宮古病院で治療ということが多く患者さんは大変な思いをしております。

岩手ホスピスの会

先月9日のTVニュースで、「地域医療を守る岩手県連絡会」のメンバーが、現在20カ所ある県立病院について、縮小や統合を行わないことなどを求める1万8000人分の署名を県に提出した様子が映し出されました。同連絡会は、現在県が新たな「保健医療計画」の策定を進めているのにあわせて署名を提出したもので、20カ所ある県立病院について、縮小や統合を行わず機能の充実を図ること、一般的な医療を完結できる地域として設定されている9つの「保健医療圏」を今後も維持することなどを求めているとのこと。また同団体では2021年10月にお産が休止されるなど機能が縮小している県立釜石病院をめぐる、市民から不安や負担が増したとの声が出ていると訴えました。これに対し県では「人口減少が進んではいるが、病院の再編ありきではなく丁寧に議論を進めるよう取り組む」と応えていました。(新聞記事12面「アンテナ」参照)

岩手は広い県土を持ち質の高い医療は中央部に集まり、沿岸部の医療は統廃合が進んでいるように地域住民は感じています。

医師・看護師不足を抱える中ではありますが、急性期から在宅まで切れ目のない医療を目指す県の姿勢に加え、地域のニーズや特性を訴える患者家族の声にも耳をかたむけてほしいとおもいます。

治る病気ならどこへでも行すが、治らない命ならば、せめて生まれ育った地域や家族のもとで最期を迎えたいという声を沢山聞きます。

県立病院の次期経営計画がどのようになるのか患者会としても関心が高まっています。

また、地域医療の充実を願う中で、緩和ケアの充実を切に願います。



岩手県がん対策推進協議会

岩手ホスピスの会とタオル帽子ボランティアへの メッセージ (2023年5月～2023年9月)



当会のタオル帽子を受け取ったがん診療連携拠点病院から寄せられたメッセージをご紹介します。2008年6月からスタートしたタオル帽子発送はこれまで110960個に上っています。今日もどこかでタオル帽子の活動に思いを寄せている方がいます。帽子を作るボランティアの皆さんに深くお礼申し上げます。

*これからきつい抗がん剤治療を受けます。髪の毛も抜けるそうです。現在受けている治療の結果に喜んだり悲しんだり落ち込んだりする日々ですが、少しでも精神的に強くなって乗り越えて行きたいと思います。ボランティアの皆さんが心を込めて作ってくれた帽子をこれから使わせて頂きます。すてきな帽子をありがとうございました!! (三重県四日市市)



*昨年11月に胸のしこりに気づき、病院に行ったら乳がんを宣告されました。主人と二人頭の中が真っ白になりました。2年半透析生活の介護をしていた義母を見送った後のことだったので、神様は何でこんな意地悪をするのか、私が何か悪いことをしたのかと涙が止まりませんでした。治療を受ける中、看護師さんよりお宅様から送られた帽子をいただき、辛い抗がん剤治療の励みになり、私を涙から笑顔へと導いてくれました。おかげさまで薬がよく効き、完全にしこりが消え手術、リンパへの転移もなく、その後の患部の検査結果も完全にがん細胞が消えていたと報告を受け、完治したとのこと。本当にありがとうございました。これからも多くのがんで苦しむ人たちの助けになる様、帽子の材料費の足しにしてください。(福岡県)



フェイスタオルご寄付のお願い

皆様にお願ひがあります。ボランティアさんがタオル帽子を作るためのフェイスタオルがとても不足しております。どのようなものでも構いません。ご家庭で眠っているタオルがありましたらぜひご協力を願ひいたします。

〈送付先〉 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町13-31 岩手ホスピスの会宛

タオル帽子を作りたい方へ

※タオル帽子を作りたい方へ型紙をお譲りしています。申し込み方法：はがきかメールで。

※メールアドレス：hospice@eins.rnac.ne.jp

はがき：〒031-0823 青森県八戸市湊高台6-4-22 吉島方「岩手ホスピスの会」

これからのタオル帽子講習会・サロン日程

11月11日：タオル帽子講習会・サロン

1月13日：タオル帽子講習会・サロン

●開催時間：午後1時30分から

※型紙のコピーはご遠慮願ひます。型紙の必要な方は当会へお問ひ合わせください。

12月9日：タオル帽子講習会・サロン

●場所：盛岡市総合福祉センター

●問ひ合わせ先：080-1658-1762

リレー・フォー・ライフきたかみに ルミナリエメッセージで参加

「がんになっても住みよい街をめざして」を合言葉に、がん患者やその家族を支援するチャリティーウォーク「リレー・フォー・ライフ・ジャパン北上」が6月10日、北上市のみちのく民俗村で開催され、243人が参加して、ウォークリレーなどを行いました。そのうち26人はがんのサバイバーの方々でした。会場のあちこちには、久しぶりに直接対面して笑顔で話をする人たちもたくさんいて、主催者は「自分の思いを伝えられる場の大切さをあらためて感じた」と話していました。



会場では患者や家族のメッセージを幻想的なライトで映し出す「ルミナリエイベント」が開催され、当会からも伊藤ヨシ子副代表がルミナリエメッセージで参加しました。

毎日が母の日

母が旅立ちしてから、今秋17回忌を迎えようとしています。一日中続く痛みは、圧迫骨折のためと思われていました。検査台に乗るのも大変な状態の中で検査していただき、その結果初めてすい臓がんが骨に転移していると判明。亡くなる3か月前からモルヒネの処方開始され、やっと眠れるようになりました。往診クリニックの先生方、看護ステーションや介護ヘルパーの皆様を支えていただき最期の日まで痛みが薄らいだこともあり「ありがとう」の言葉を言い続けながら過ごすことができました。痛みを顔にゆがめていた母が、最期までの日々を感謝の言葉と笑顔浮かべてくれたこと、娘として幸せな思い出を貰えました。

お母さん、私からもいっぱいありがとう。私にとって今も、毎日が母の日です。

薄紅のあなたの好きな花抱え 香に包まれ 語るひととき
命日に花をかかえて石段を のぼりし先に 君が手を振る
母偲び形見の指輪つけた日に 涙と力 同時にもらい
今もなお三面鏡の引き出しに 母の匂いの 真白きたおる
母逝きてろくとせ日々を重ねども 恋しさ募る 朝焼けの空
雨上がり紫うるわし露草を 手折り亡母と 語らいの午後
七回忌終えなおつる思慕の念 母恋しかり 幼児のごとく
旅立ちの秋の朝より毎日が 花を捧げる 愛し母の日
(稚拙ですが、折々に詠んだ歌です)



たくさんの方々の思いが書かれた
ルミナリエバックが、会場に並べられ
光を灯されました

花が大好きだった母、今も我が家には花が途絶えず飾られています。

伊藤ヨシ子

岩手県内各ホスピス現況

(岩手ホスピスの会調べ 詳細は)

	孝仁病院 緩和ケア病棟	盛岡赤十字病院 緩和ケア病棟	盛岡友愛病院 緩和ケア病棟
住 所	盛岡市中太田泉田 28	盛岡市三本柳 6 地割 1 番地 1	盛岡市永井 12-10
電 話	019-656-2888 医療福祉相談室	019-637-3111 (代表) 緩和ケア相談室 内線 338	019-638-2222 (代表) 医療相談室 緩和ケア担当 内線 185
病 床 数	10 床	22 床 (全室個室)	18 床
ベ ッ ド	無料個室 8 床 有料個室 2 床	無料 12 室 有料 10 室	個室 10 床のうち 9 床が有料 4 床室無料
ベ ッ ド 料	1 日 3,300 円	1 日 5,500 円・11,000 円	1 日 5,500 円
看 護 師 数	16 名 + 看護補助者 1 名	21 名 + 看護補助者 2 名	16 名 + 看護補助者 4 名
ホスピス医	米山幸宏	畠山元、旭博史	藤井祐次
看 護 師 長	栗木真由美	前澤江里	上山志鈴江
入 院 審 査 を 受 け る に は	地域連携室にご相談ください。 月～水・金・土曜 9:00～17:00 木曜 9:00～12:30	緩和ケア相談室へお問い合わせ ください。 月～金曜 9:00～16:00	医療相談室まで。 019-638-2222 (代表) 月～金曜 9:00～17:00 土曜 9:00～12:30 (第 2・4 土曜は不可)
審 査 日	随時	随時	随時
ホスピス入院 平均待機者数	0～3 名	0～2 名	0～2 名
ホスピス入院 平均待機期間	状況により数日～2 週間 重症者優先	外来受診後、平均 6 日	状況により数日～1 週間 (患者さんの 意向を確認後、一般病棟で対応する 場合があります)
利 用 者 内 訳	盛岡市周辺がほとんど (8 割以上)	盛岡市周辺の方がほとんど	盛岡市周辺の方がほとんど
緩和ケア外来	診察日: 月～水・金 8:30～16:30 要予約 木・土 8:30～11:30 要予約 担当医: 米山幸宏	診察日: 火・水・木 14:30～16:00 要予約 担当医: 畠山元、旭博史	診察日: 水・木・金 (AM・PM) 要予約 担当医: 藤井祐次
ホスピスボ ランティアの 人 数 と 活 動	登録者 6 名 ※イベント活動ボランティア募集中	病院ボランティア登録者 13 名。 うち 12 名がホスピスで活動。 ※月 2 回程度で活動再開	年 1 回程度イベント時活動 ※現在、コロナの影響のため 休止中
遺 族 会 の 名 称 と 連 絡 先	名称: ひだまりの会 年 2 回開催 連絡先: 緩和ケア病棟 栗木 ※感染防止対策のため休止中	ハナミズキの会 緩和ケア病棟 年 1 回開催 ※昨年、会報を作成し配布。 現在、再開検討中	設置未定
入 院 料	定額制 (3 段階…診療報酬上の緩和ケア病 棟入院料に準じます) 保険適用	定額制です。 入院日数によって 3 段階での算定 です。	定額制。入院期間により 3 段階。患 者さんの自己負担額は加入している 保険等により異なる。 各種医療保険適用、医療費の他に食 事代別途徴収。
ペットの同伴	面会可能。宿泊不可。要相談。	面会は可能。宿泊や飼育は不可	面会のみ可能。条件あり。 要申請。
麻 酔 医 と の 連 携	必要時可能	硬膜外ブロックなどを行う場合など に連携あり。	なし

(2023年7月現在)

各病院に直接お問合せ下さい)

岩手医科大学附属病院 緩和ケア病棟	岩手県立磐井病院 緩和ケア病棟	岩手県立中部病院 緩和ケア病棟	美山病院 緩和ケア病棟
紫波郡矢巾町医大通2丁目1番1号	一関市狐禅寺字大平17番地	北上市村崎野17地割10番地	奥州市水沢羽田町字水無沢495-2
019-613-7111(代表) 緩和ケアセンター 内線3223	0191-23-3452	0197-71-1511	0197-24-2141
25床	24床(個室20、2床室2)	24床(個室18、2床室3)	20床(全室個室)
無料個室17床 有料個室8床	無料17床 有料7床	有料個室10床、無料室14床	無料20室
1日5,500～25,300円	1日3,190～6,490円	1日3,300～13,420円	無料
25名+看護補助者1名	18名+看護補助者1名	20名+補助3名	17名+ケースワーカー1名+看護補助者5名
木村祐輔、鴻巣正史、中村清華	平野拓司	星野彰、綿引奈苗、齊藤秀典	及川司
竹内可愛	小野寺美智子	吉川朗	小林洋子
緩和ケアセンターに 相談ください。 019-613-7111 内線3223 月～金曜 8:30～17:00	0191-23-3452(入院相談等) がん相談支援センター 相談時間:平日8:30～17:15	0197-71-1511(入院相談他) がん相談支援室 相談時間:平日9:00～16:00	入院相談(担当:ケースワーカー) 後面談 入退院検討会(医師、薬剤師、 栄養士、看護師、理学療法士 で構成)
随時	随時	随時	随時(その後ベッドが空くまで待機)
0～3名	0	1～2名	0
状況により数日～1週間程度	数日(緊急対応可)	待機期間は同院一般病棟や 近隣の病院、連携のとれている 訪問診療で対応	0
盛岡市周辺の方が多い	一関市周辺や宮城県北の方が ほとんど	花巻北上周辺の方が8割以上 その他は奥州、盛岡等	奥州市周辺の方がほとんど
診察日:月～金、要予約 担当医: 木村祐輔、鴻巣正史	診察日:月～金、要予約 担当医:平野拓司	診察日:月～金の午前、 要予約 担当医:星野彰	診察日:水(午前中) 要予約 担当医:及川司
実績無し 活動検討中	ボランティアコーディネーター 1名、ボランティア12名 活動:ティータイム、季節の行事、 がん患者サロン(こころば) (※コロナ禍のため活動休止中)	登録者39名。 活動内容:お茶会・歌っこの会・ アロマ・生け花・季節のイベント 企画(コロナ禍にて、現在活動 は生け花とイベントの一部のみ)	現在登録者5名で活動中。 ホスピスボランティアを 随時募集中
設置未定	偲ぶ会(連絡先:緩和ケア病棟) 当院緩和ケア病棟でお亡くなり になった方のご遺族の方のみ 年1回開催 (※コロナ禍のためR2～未開催)	偲ぶ会 緩和ケア病棟 (0197-71-1511) 当院緩和ケア病棟でお亡くなり になった方のご遺族の方のみ 年1回開催(令和4年度は中止)	しちせき 七夕の会 緩和ケア病棟 (0197-24-2141) 当院緩和ケア病棟でお亡くなり になった方のご遺族の方のみ これまでに7回開催(2020～中止)
定額制 (診療報酬上の緩和ケア病棟 入院料に準じて入院期間により 3段階)保険適応	定額制(入院期間により3段階) ただし、定額に含まれない加算 や有料個室の料金等は別途追 加になります。	定額制(入院期間により3段階) ただし、定額に含まれない加算 や有料個室の料金等は別途追 加になります。	定額制 3段階になります。
面会のみ可能。宿泊不可。 条件有。要申請	要申請。ケージに入る小型犬が 望ましい。大型犬は要相談。	面会可能。宿泊可	面会可能11時～16時 (面会時間を決めて可) 宿泊要相談
必要時可能	なし	院内ペインクリニックと連携	なし



岩手のがん相談支援センター

岩手県立二戸病院 がん相談支援センター (カシオペアがんなんでも相談室)

看護師 畑山 賢

岩手県立二戸病院のがん相談支援センターは、「カシオペアがんなんでも相談室」という名称で、1階外来診察室の並びにあります。看護師1名とMSW(医療ソーシャルワーカー)3名が主に相談に応じています。ご相談は無料で電話での相談も受け付けております。

特に予約の必要は無く、平日の午前9時から午後の5時までの間に対応させて頂いております。

「カシオペアがんなんでも相談室」という名称の通り、がんに関する様々な相談、例えば病状や検査、治療のこと、副作用や痛みなど体のつらい症状のこと、医療費の負担やセカンドオピニオンに関することに対応しております。

また患者さんのご家族からも、患者さんとどう接したら良いか、食事はどのようにしたらよいか、何処でどのように療養していったら良いのかといったご相談もあります。

患者さんやご家族のなかには、単にがんの治療や療養に関する情報を求めていらっしゃるというよりは、対話を通して、ご自身の思いや考えが整理され、「なんとなくすっきりした気がする」とおっしゃって頂ける方もいらっしゃいます。

またご自身の病状や治療のことに関して周りの人に知られたくない、相談できない、相談してもわかってもらえないと感じられている患者さんやご家族からも、「ここでしかこんな話は出来ない、話ができて良かった」とおっしゃって頂くこともあり、対応するスタッフの励みにもなっております。

がんに関する相談は多岐にわたっており、相談対応のスタッフだけではお応えできないことも多々あります。相談内容によっては、患者さん、ご家族の了承をいただいた上で院内の医療スタッフや、地域のケアマネージャー、訪問看護ステーション等と連携をとりながら対応させていただいております。これからも不安なこと、わからないこと、話したいことなど「がんなんでも相談」の窓口として利用していただけるよう活動していきたいと思っております。



お問い合わせ先

岩手県立二戸病院 がん相談支援センター (カシオペアがんなんでも相談室)
住所：岩手県二戸市堀野字大河原毛 38 番地2 電話：0195-23-2191

***** 岩手ホスピスの会活動日誌 *****

2023年5月～9月

5月13日	第5回役員会、タオル帽子サロン・講習会、ホスピス通信発送作業 (盛岡市総合福祉センター、31名)
5月28日	日総研出版雑誌「地域連携」に「患者・家族のエンド・オブ・ライフケア」記事原稿送付
6月10日	第6回タオル帽子サロン・講習会(盛岡市総合福祉センター、19名) リレーフォーライフ北上にルミナリエメッセージで参加 (北上市みちのく民俗村、2名)
6月17日	第6回役員会 (盛岡市総合福祉センター、12名)
7月5日	JA 岩手中央よりタオル帽子作成用のタオル寄贈式 (矢巾町 JA、5名)
7月8日	第7回タオル帽子サロン・講習会 (盛岡市総合福祉センター、16名)
7月15日	会計打ち合わせ (盛岡市タオル帽子倉庫、2名)
7月29日	第7回役員会、がん患者さんのための公開栄養講座 (盛岡市総合福祉センター、38名)
8月5日	第8回タオル帽子サロン・講習会 (盛岡市総合福祉センター、18名)
8月19日	第8回役員会 (盛岡市総合福祉センター、11名)
8月24日	岩手県保健福祉部医療政策室に当会のがん対策取り組み状況を報告 (盛岡市、2名)
9月9日	第9回役員会～第9回タオル帽子サロン・講習会 (盛岡市総合福祉センター、33名)
9月14日	盛岡タイムス取材 (盛岡市内、2名)
9月18日	岩手日報取材 (盛岡市タオル帽子倉庫、2名)
9月19日	第32回岩手県がん対策推進協議会参加 (岩手県水産会館、1名)
9月23日	「緩和ケアへの願い」上映会 (盛岡市中央公民館講堂、96名)

「岩手ホスピスの会」何でも話そうお茶っこ会

開設日	毎月第2土曜日 午後1時30分～4時(月により変更あり。要問合せ) 無料
場 所	盛岡市若園町総合福祉センター内 タオル帽子サロン会場(月により変更あり)
内 容	電 話：がん全般・介護全般について対応致します。 直接面談：上記会場に来院して頂き対応 ※事前にお電話いただければ、内容に合ったスタッフが対応致します。
問合せ	岩手ホスピスの会 090-2604-7918



県立病院の縮小・統合を行わず、 地域医療の充実を求める署名に協力しました。

昨年9月、岩手県は「基幹病院の統合や救急医療の集約、二次保健医療圏の広域化」などを盛り込んだ「行財政計画」を出しましたが、県民からは「地元で県立病院を残してほしい」「県立病院がなくなったら、病気になったときどうすればいいのか」などの声が上がっています。このほど医労連、岩手県社会保障推進協議会等が呼びかけ団体となった上記署名に、当会も協力しました。県立病院の縮小・統合は全県民に関わる切実な問題であり、多くの方に知っていただき、声をあげていただきたいと願っております。(新聞記事12面「アンテナ」参照)



岩手県立中央病院

書籍紹介①



NEW ガン STORY : 中里るみ

NEW ガン STORY # 1 ~ 摘出編 作・中里るみ

¥2,000 税込

古道具るりいろ商店 店主の乳ガン闘病記・第1弾。
発覚～入院・手術～退院までを、ノンフィクションで
語る (カラー写真付き)。A5 判・144 ページ

パワフルで前向き。自由な文体の「乳がん体験記」。豊富な写真や文体から著者の人柄が伺える。本を読みながら、私自身の乳がん治療の日々を思い出した。10 数年前、初めて胸に小さなしこりを見つけたときのこと。検査結果が出るまでの日々。告知を受けた日のこと。

手術の日が決まった日。手術。入院生活…。

乳がんと言われ手術が決まった時、私も著者と同様、手術後の胸の写真を撮ろうと思った。

だが、実際はそれどころではなかった。

がんの状態や、それを受け入れる気持ちは、人それぞれ。日々の選択もそれぞれ。

著者のがん物語を読んで、私の物語を思い出した。

続編としてリハビリ編、治療編①各 1,500 円も出ている。自費出版

(文・オオモリチカ工)

※中里るみさんは岩手県がん対策推進協議会構成員として、同協議会で毎回患者の立場に立った意見を述べています。

本の
オンライン販売

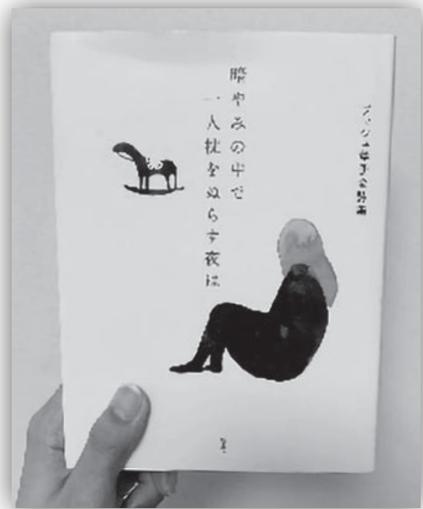
QR コードは、
以下になります



★レビュー★

- ・ そうなの腕上がらないの、 そうなの限度額適用認定証ってすごい、と共感しながら読んでいたよ。
(乳がん罹患者)
- ・ スリル満点のジェットコースターに乗った気分、 るみさんしか書けない話。本当は辛いのに笑いが止まりませんでした (笑)。ガン摘出した写真を見て、義母のガン摘出したあと術後説明の時の写真を思い出しました。
- ・ 表紙は、身から出た「乳」だったとは (笑)。この本の調子だともうほぼ元通りみたいな生活送ってそう (笑) だけど、無理せず自分の身体の声には耳を傾けてあげてね。
- ・ 重い話をサラリと軽く読ませるね。読む前は装丁がちょっとなんかなあと思いましたが、読んでからはなんだか受け入れられた。続きが出るなら読みたいけど、あんまり続くなとも思いました。次巻で完結なるといいね!
- ・ まずメチャ punk な表紙に一笑。回文に一笑。いつもなら ZUMBA したりする夕方の 2 時間に一気に読みました。ナースステーション内では、要注意患者で話題になっていたに違いない (笑)。でも、真面目に大変なハードルなのに、どこか他人事!? のんき!? に笑えるのは?? きっとポジティブ思考で、こっちの想像する所に居ないんだろうね☆
(看護師)

書籍紹介②



暗やみの中で一人枕をぬらす夜は ブッシュ孝子全詩集

新泉社 (2020/4/10) 単行本：168 ページ

早世の詩人・ブッシュ孝子、死後半世紀経て
全作品集 いま語りかける、魂のうた

病により 28 歳で世を去った詩人、ブッシュ孝子の全詩集が今春、刊行された。死の直後に出された唯一の詩集から半世紀近くを経て、未発表の作品も収められる。彼女が病床でつぶつた言葉は、先の見えない不安を抱える私たちの心に、いま再び語りかけてくる。

新泉社 (東京都) の浅野卓夫さんは昨年 1 月にあった若松英輔 (批評家・随筆家) さんの講演会で、「いま本当に読まれるべき詩集だ」という言葉を聞き、刊行を思い立った。

今年 4 月、同社から『暗やみの中で一人枕をぬらす夜は』が出された。

《暗やみの中で一人枕をぬらす夜は／息をひそめて／私をよぶ無数の声に耳をすまそう／地の果てから 空の彼方から 遠い過去から ほのかな未来から／夜の闇にこだまする無言のさけび／あれはみんなお前の仲間達／暗やみを一人さまよう者達の声／沈黙に一人耐える者達の声／声も出さずに涙する者達の声》

表題の元となった一節のように、易しく、透明な言葉が紡がれる。死への恐れを感じながらも、詩人は自他に対するいつくしみに、深く思いを寄せていく。

「夜になると、言葉がわき出てきて、書きつけなくちゃいられなくなるんだ」。生前に娘が語った言葉を、母親の和子さんは覚えている。「この世にいたのは 28 年間でしたが、人生は長さではないのですね。亡くなる最後の瞬間に、自分のこれまでの人生を全てぶつけて、生まれてきた詩だったのでしょ」

《私は信じる／私にも詩がかけるのだと／誰が何といおうと／これは私のほんとうのうた／これは私の魂のうた》
(山本悠理) = 朝日新聞 2020 年 7 月 15 日掲載



がん当事者の声 映像に

岩手ホスピスの会

緩和ケア理解訴え

23日に盛岡で上映会

岩手ホスピスの会 (川守田裕司代表) は、がん患者とその家族が体験した闘病の様子や心境を紹介する映像を制作した。当事者の生の声を通じ、治療の痛みや不安を和らげる緩和ケアの必要性を訴える。23日に盛岡市愛宕町の市中央公民館で上映会を開く。

映像のタイトルは「緩和ケアへの願い〜がん患者とご家族の経験から〜」。県内の患者や、がんで家族を亡くした遺族ら 6 人の体験談を 30 分にまとめ収録した。治療への不安や副作用のつらさ、緩和ケア病棟での生活、家族との向き合い方などをインタビュー形式で紹介する。

編集は、同会員で「記録屋」として映像制作を手がける大森智加江さん(55)が担当する。

上映は、同会員で「記録屋」として映像制作を手がける大森智加江さん(55)が担当する。

川守田代表は「緩和ケアの重要性を多くの人に知ってほしい。痛かったり、つらかったりしたときは、ためらわず医師に伝えることが大切だ」と強調する。

23日の上映会は午後 1 時半〜同 3 時。医療や介護に関する情報共有の時間も設ける。参加無料、申し込み不要。問い合わせは同会(090・2604・7918)へ。

がん患者らの体験を伝える映像を作った川守田裕司代表(右)と大森智加江さん



JAいわて中央女性活動部(戸塚幸子部長)は、第2土曜日(13日)にボランティアや放射線治療で髪の毛を抜けるのは、女性にタオルの寄付があったら嬉しい。この日、矢巾町南矢

帽子用タオルを寄贈

JAいわて中央女性部 岩手ホスピスの会に

同会は2008年6月、タオル帽子の製作。これまで送った子を作っているのを知っている。単価が高くない。同部は、紫波地域部を通じて、人と人のつながりができるの意



タオル帽子を製作する会員ら(13日、盛岡市総合福祉センターで)

タオル帽子ががん患者へ

がん患者や家族を支援する公益財団法人「正力厚生会」が公募した今年度の助成事業で、県内からは、抗がん剤治療の副作用による脱毛に悩む患者のために、「タオル帽子」を製作している「岩手ホスピスの会」(盛岡市)が選ばれた。

正力厚生会 岩手ホスピスの会に助成

同会は、2002年にがん患者や家族らで結成された。当時、県内に患者の苦痛や恐怖を和らげるホスピスのような施設はなく、妻をがんにくした川守田裕司代表(66)が、「患者の痛みを和らげる医療が広まってほしい」と思い、会の設立を呼びかけた。現在の会員は約230人。帽子作りは、吉島美樹子事務局長(61)が、脱毛で苦しむ患者の家族から相談を受けたことがきっかけで、08年に始まった。吉島さんも、かつて血液のがんである悪性リンパ腫の治療で髪の毛が抜けた経験があった。そこで、通気性の良いタオル製の帽子を思いついて試作したところ、「一人のぬくもりを感じられて安心する

盛岡タイムス 2023年5月18日掲載

アンテナ

充実した地域医療求める

地域医療を守る県連絡会は、県と県医療局に「県立病院の縮小・統合を行わず、地域医療の充実を求める」署名を提出した。中野るみ子代表(写真)は「沿岸では診療科が不足し、内陸との格差がある。交通アクセスの面も心配される」と指摘。県の次期保健医療計画について「住民の思いも反映させてほしい」と声を大にする。



岩手日報 2023年8月10日掲載

盛岡タイムス 2023年7月8日掲載

新年度継続とご支援のお願い

年会費が一口2,000円になりました

皆様からのあたたかなご寄付、ご支援をいつも本当にありがとうございます。

岩手ホスピスの会が、がん患者さんやご家族に寄り添い活動できる支えは、皆様のご支援によるものです。今後も安定した活動を継続するため、ご理解とご支援をお願いいたします。

2023年度会費(2023年1月~2023年12月分)を郵便局にて、振込用紙に住所、氏名を明記の上お振込をお願いいたします。ご住所の変更があった方はご連絡をお願いいたします。

年会費:2,000円(複数口可) 郵便振替:02250-1-60580 岩手ホスピスの会